



加津佐小学校開校

希望に満ちた学びや

春——。

冬の寒さが和らぎ、生物が動き始め、植物たちが活動を始める季節、春——。

卒業式や入学式。または人事異動など、出会いと別れの季節、春——。

さまざまな節目となるこの季節に
加津佐町で1つの節目を迎えました。

加津佐東小学校、津波見小学校、山口小学校が
児童数減などにより、長年の歴史に幕を閉じ、

3校が統合した加津佐小学校が
新たに誕生しました。

この春、節目を迎えた加津佐小学校。
これから子どもたち、そして地域によって

新しい歴史を刻んでいきます。



加津佐東小学校

加津佐町の南東部、堀川のほとりに位置し、校舎の窓からは「愛宕山」「岩戸山」を望むことができます。開校は、明治7年、第六区下等水月小学校として創立。その後、尋常水月小学校や高等国民学校、加津佐小学校などと改称し、昭和51年に宮原小学校と統合し、加津佐東小学校が誕生しました。自然の美しさや雄大さを感じながら巣立った子どもたちは、2,809人にもなりました。



津波見小学校

江戸時代に本朝二十四孝に列せられた孝子「安永安次」氏の生誕の地である津波見地区。命日にあたる4月24日には学校、地域をあげての孝子祭が催されるところにも、学校では毎月10日を「家族を想う日」と定め、教育活動が展開されてきました。明治16年、野田小学校津波見分校として開校した津波見小は、130年の歴史に幕を閉じましたが、安永安次氏の尊い教えとこれまでの歴史はいつまでも生き続けていくことでしょう。



山口小学校

加津佐町の北東に位置し、天草灘を一望する高台にあります。校舎は、地域の私たちの労働奉仕によって作られた木造校舎。開校は、明治7年、下等山口小学校として創立。その後、中等水月小学校山口分校、山口国民学校などと改称し、昭和22年、山口小学校となりました。明治7年に開校した山口小。地域の皆さんと共に歩んできた学校は、139年の歴史に幕を閉じました。



堂崎小学校木場分校閉校、新しい堂崎小学校の幕開け

堂崎小学校木場分校は、明治36年に堂崎小学校木場分教場として設立して以来、110年の歴史に幕を閉じました。明治8年、六郎木・浜・石田地区に寺子屋式授業を行ったのが本校堂崎小学校の始まりで、28年の時を経て、明治36年に木場地区に「木場分教場」として設置



堂崎小学校木場分校

された。昭和63年には、現在の校舎が建築。屋根の景観や講堂のオープンスペースなど、創意工夫が凝らされ、子どもたちが学年を越えて仲良く過ごせるような設計で建てられました。地域の子どものための教育を担い、数多くの子どもたちを本校へ送り出してきた木場分校は閉校しますが、これまでの歴史と伝統が堂崎小学校に受け継がれ、新しい堂崎小学校がスタートします。



堂崎小学校(本校)